

亥年、まっすぐまっすぐ前進へ！

新年明けましておめでとうございます。2019年・平成31年を迎えました。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えになられたことと思えます。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

さて、平成最後の年であり、今年亥年と十二支の最後です。綿向神社は、猪が綿向大神の神使いとされ、本殿の横には猪像があり、猪にゆかりが深い神社です。亥年の今年には多くの参拝者でにぎわっており、長蛇の列ができていました。



私の住む「村井」は、もとは「猪が群れるところ」「群れる猪」から転じて「村井」となったとも聞いています。今年にはまさしく、猪のごとく、まっすぐまっすぐ前へ前進していきたいものです。

さて、本日3学期の始業式を迎えました。元気に子ども達は登校し、久しぶりの再会に顔をほころばせました。3学期は、授業日数50日余りと、あっという間に過ぎ去っていきます。学習や生活すべてにおいてまとめの学期となる3学期、それらがしっかりでき、次の学年へ滑らかに繋ぐことができますよう、指導に努めていきたいと考えています。特に、6年生は卒業を控え、残された日々を大事に過ごし、西大路小学校で学んだことを誇りに持てるよう最後の仕上げをしてくださいね。



今年、天皇陛下が代わられるということで、様々な行事等が行われたり、十連休のような休日があったりと、社会情勢が一気に変化するように思えます。そのような中で、子ども達は地に足をしっかりとつけ、自分の思いや願いに向かって、勉学に勤しんでほしいと願っています。

「知仁勇」に学ぶ



本校の前庭の正面玄関前に石碑があります。そこに、「知仁勇」と刻まれています。何気なしに見ていたのですが、先日お客様が来られた際、この文字を見られて、「私が小学校の時は、『知組・仁組・勇組』でした。」とおっしゃられました。この言葉のもつ意味は何なのだろうと思ひ、調べてみました。《以下引用文》



知、仁、勇の三者は天下の達徳なり

「知仁勇三者天下之達徳也」『中庸』

「達徳」とは、徳のなかの徳です。とりわけ重要な徳といった意味です。徳は幾つもの要素から成り立っています。そのなかでも、とりわけ重要なのが、知、仁、勇の三つだといひます。

まず、第一の「知」とは、1. 深い読みのできる能力、2. ものごとを適切に処理できる能力—この二つの複合のうえに形成されます。

つぎの「仁」とは、相手の気持や立場に立って考えてやることです。つまりは思いやりです。

むろん、その前提として、「我も人なり、彼も人なり」という人間的共感がなければなりません。

「勇」とは勇気である。決断力と言ってよいかもしれませんが、進むにせよ退くにせよ、決断すべきときに、きちんと決断できる能力、それが「勇」です。

「達徳」身につけたいものです。

上述のように、とても意味深いものであることを知り、この教えを学校教育に採り入れられた諸先輩の教育に対する情熱を学び、子ども達への教育に精進していきたいと肝に銘じています。

〈文責：校長 正野新造〉